

▶▶シーリング

今回は、新築工事のシーリング材について、認識しておくべき特性の一端を述べたい。

ビルや住宅の外壁には、温度や湿度の変化による伸縮、あるいは地震や風圧によるたわみ、位置ずれによる部材同士の接触を防ぐためにシーリング材が使われている。シーリング材には、水密性・気密性を付与できる材料であること、目地のムーブメントに追従できること、耐久性に優れていることなどに加えて、建物を汚さないといった意匠性能も要求されている。

シーリング材は、シリコーン

マンション
大規模修繕

NPO法人ニューアル技術開発協会

新築工事への
フリードバツク ⑦



ガラスブロックの周りに
使用されたシリコーン系
の汚れ

系、変成シリコーン系、ポリサルファイド系、アクリルウレタン系、ポリウレタン系などの種類がある。万能のシーリング材があれば、1つの建物を1種類の材料だけで対応できるが、残念ながらそれぞれのシーリング材に長所と短所があるため、適材適所で数種類のシーリング材を使い分ける必要がある。

耐久と「汚さない」意匠性

適材適所で使い分け必要

シリコーン系シーリング材は、自身に汚れが付着しやすく、かつ雨掛かり部位では目地周辺に汚れが広がる。そのため、外壁に使用する際は定期的にクリーニングをする必要がある。タイル目地のように多孔質の部材ではシリコーンの成分がしみ込み、汚れが取れないため注意しなければならない。一方、シリコーン系は耐水性に優れており、風呂や水回りに使用されてい

る。

変成シリコーン系は、シリコーン系のような目地周辺に汚れが発生することはないため、外壁のさまざまな目地に使用されている。しかし、ガラス回りに使用するとはく離するので注意が必要となる。

ポリサルファイド系は、自身に汚れが付着することが少なく、シーリング材を露出使用するタイル目地や建具回り目地に



シーリング材に塗られた
塗料の汚れ

もっとも優れた材料である。

シーリング材の上に塗装すると、塗膜が固まらなくなるほか、変色、軟化によるほこりの付着などの汚染現象が発生する場合がある。弾性のある塗料や水性塗料は汚染する傾向がみられる。そのため、アクリルウレタン系およびポリウレタン系は、塗装汚染の原因となる可塑剤の

塗料への移行を最小限に抑えほとんど汚染が生じない、塗装される目地に適したノンブリードタイプのシーリング材が開発されている。最近では、変成シリコーン系でもこのタイプがある。

シーリング専門業者だけでなく、建具、設備、電気など各工種でもシーリングを施工する機会が多くあり、適材適所の管理が徹底できていないことが大きな問題点として挙げられる。

まずは設計者・施工者が認識し、各工種で正確な指示を与えることが必要となる。耐久性だけでなく『汚さない』という意匠性もシーリングに求められていることを再認識してほしい。